



 巻頭言

会長就任に際して

北川 敏男*

この度会員多数の御信任により、はからずも会長の席を汚すことになりましたが、まことに浅学非才、果して、会員皆さんの深厚なる御期待に添えますことか、願ひてまことに心許ない次第であります。しかし会長就任をお引受け致しましたからには、愚鈍に鞭ち、本会の発展のために、能う限りの犬馬の労は惜まず、努力させていただきたいと存じております。つきましては、全会員の皆様の御懇切な御支持と御鞭撻とを頼みとし、練達有能な両副会長以下、理事諸氏の御協力のもとに、活発な学会運営を効率よく進めさせていただきたいと、念願しています。この重大な任務を確実に遂行してゆくためには、申すまでもなく学会事務当局の一層の御精励を期待し懇請している次第であります。

本学会は1960年に創立されましたから、まだ若い学会であります。1975年3月末現在におきまして、会員数8,217名に達し、数多くの学会のなかで、いまでは、決して小さい学会ではありません。学会活動におきましても、機関誌「情報処理」(月刊)のほか、英文誌「Information Processing in Japan」(年1回)も発行していますし、数多くの研究連絡会をもち、さらに研究委員会もあり、何れも、情報処理の重要な研究分野について、会員協力して研究に当り、研究成果につきましても、随時、研究会、講演会、講習会等を開催し、これを普及徹底させております。また情報処理研究の学術団体として、わが国を代表し、国際的にはIFIP(情報処理国際連合)に加盟し、IFIP Congressにも本会の代表を送るなど、国際的交流を深めています。規格調査活動を常時行なうほか、今夏には第2回日米コンピュータ会議が東京で開催される運びになり、このため本会が内外各方面の御協賛のもとに、鋭意推進していますことは、会員皆さんのよく御

承知の通りであります。

これらの活動を概観致しますれば、この15年間の短期間において、本会はわが国を代表するところの、情報処理の学術団体として、着実に地位を確立してきたといえましょう。揺籃から成人までの发育を見守られてきた歴代の会長以下役員諸氏の御苦勞をしのび、事務局長以下事務当局の営々たる努力をふりかえってみますとき、会長以下役員に責任を担うものとしましては、これら努力の蓄積の上に築かれた発展の成果を、一步も後退することなく、確実に堅持し続けることが、第一の任務であろうかと存じます。

しかしながら、他方われわれは、絶えず新なる発展の道をも、あわせ探求しなければならないかと存じます。本学会には、いろいろの特徴があるかと思えます。そのなかでも、次の3点が決定的な要因になっているかと思われまふ。第1に情報科学という学問分野が、なんと申しましても、生誕間もない若い分野であり、その発展方向も、極めて多くの不確定な可能性を潜めていること。第2に社会のもろもろの活動に関連して、この学問には、社会の広範囲な人達から、深い関心と期待が寄せられていること。第3に、その結果として、当然のことながら、本会会員の構成を職業別ないしは専門分野別にみましても他の多くの学会と異なり、等質でないこと。これらの事情に鑑みると、本会の運営には、広く会員の御志向をお伺いし、その具体的な内容を綿密に把握すること、海外の動向に徹し国際的地位の一層の向上をはかること、そして反省と考察のなかから、将来の展望をつかみとること、そして要すれば、敢為に行なうこと、これらも本会の運営にあたる私どもが、応分の努力をすべき第2の任務であろうかと存じています。

(昭和50年5月15日受付)

* 本学会長 九州大学名誉教授